

福証IRフェア

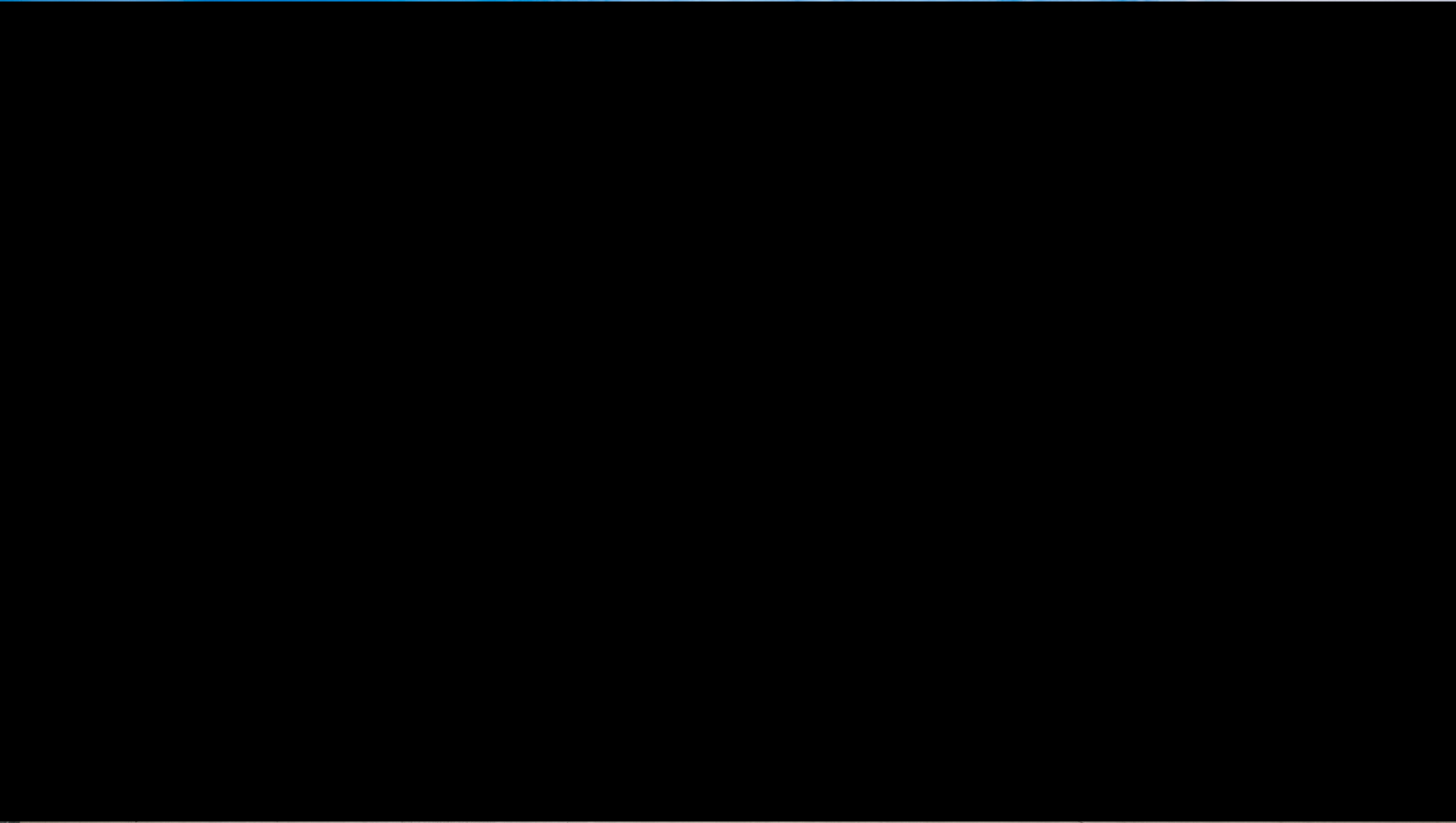
株式会社富士ピー・エス(証券コード：1848)



人と人をつなぐ。それはやがて、景色になる。

株式会社富士ピー・エス

会社紹介動画





会社概要

会社概要

会社名 株式会社富士ピー・エス

創立 1954年3月

所在地 福岡市中央区
薬院一丁目13番8号

上場 東証スタンダード、福証
(証券コード：1848)

資本金 23億7,927万円

従業員数 442名
(2023年3月末現在)

事業内容

土木事業
建築事業
不動産賃貸事業
その他

取引先

国土交通省
都道府県市町村
高速道路各社
鉄道・運輸機構
JR各社
UR
民間企業
他

スローガン



人と人をつなぐ。それはやがて、景色になる。

株式会社富士ピー・エス

グループ会社・社内ネットワーク

グループ会社

会社名	所在地	事業内容
駿河技建(株)	静岡県	コンクリート構造物の診断および補修、補強等
(株)ピーエフ・ディー	福岡県	土木・建築の設計等
ミャンマー富士ピー・エス建設(株)	ミャンマー連邦共和国	建設コンサルタント等

社内ネットワーク

本支店 7

営業所 15

工場 6

研究所 1

本店・
九州支店

広島支店

関西支店

九州小竹工場

東北工場

滋賀工場

三重工場

名古屋支店

関東支店

駿河技建(株)

関東工場

いわき工場・いわき研究所

東北支店

札幌事務所

第5次中期経営計画VISION2030

「新たな成長戦略に向けた経営リソース(ヒト・モノ・カネ)の拡充」

VISION2030の実現に向けて

VISION 2025のゴール

※経営資源の充実を図る

- ✓ 高収益体制の実現
- ✓ 経常的に経営資源を充実させていく体制・文化の構築

VISION 2030のゴール

- ✓ 価値を創造するエンジニアリング企業
- ✓ 顧客の要望にワンストップで応える企業
- ✓ 世界レベルのSDGs達成に貢献する企業

VISION2030

2030のゴール
売上高450億円
営業利益率5%

VISION2025

2030に向けた
通過点
売上高350億円
営業利益率5%

VISION2030
発表

2024年3月期
(予想)
売上高313億円
営業利益率2.3%

PPP(官民連携事業)

風力発電設備関連事業

河川堤防補強事業

土木事業

建築事業

新規事業

既存事業

既存事業の更なる充実

新規事業への挑戦・拡大

VISION2030の実現に向けて

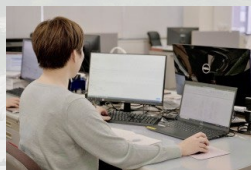
各種取り組みの位置づけ

人材資源の増強



人事制度検討会 リ・ブランディング

DXの推進



DX推進

バックオフィスの設置

工場設備の増強



工場リニューアル計画の実施

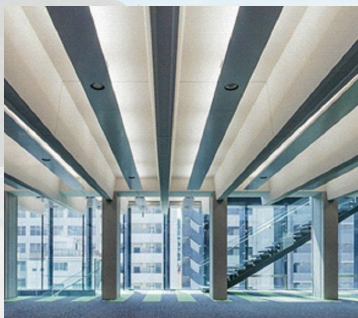
M&A・その他施策



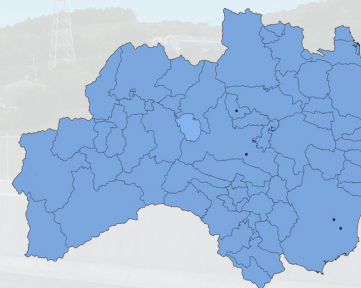
M&Aによる事業体制の拡大



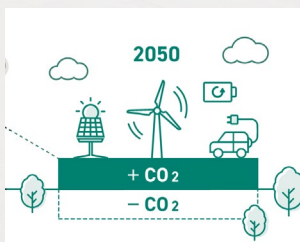
株主還元策



PcaPC事業の拡大



福島広域連携ラボ



カーボンニュートラル



いわき研究所本格始動

新規事業



PC矢板を用いた堤防補強



風力発電設備関連事業

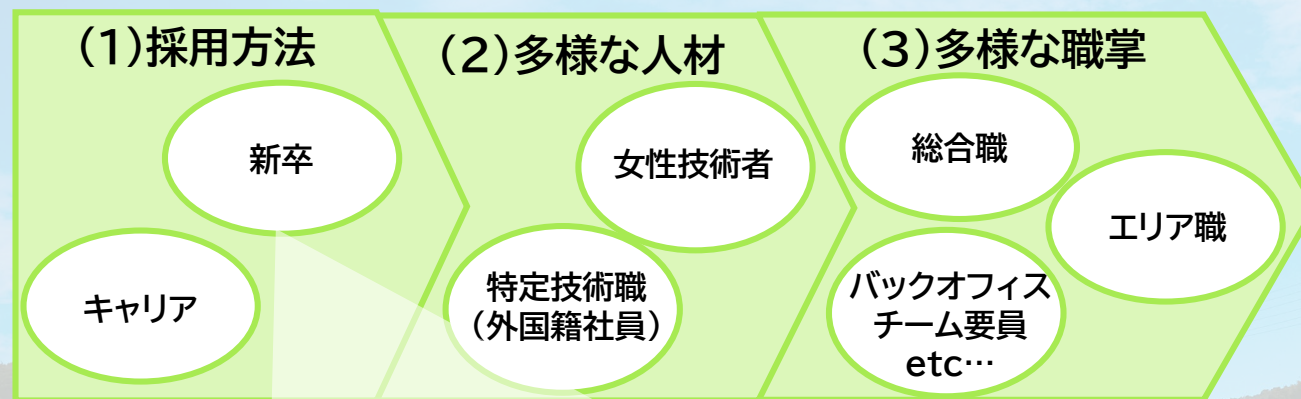


PPP(官民連携事業)

社員採用と入社後のキャリア形成

【多様なリクルート、育成プログラムで人材資源の強化を図る】

①人材採用

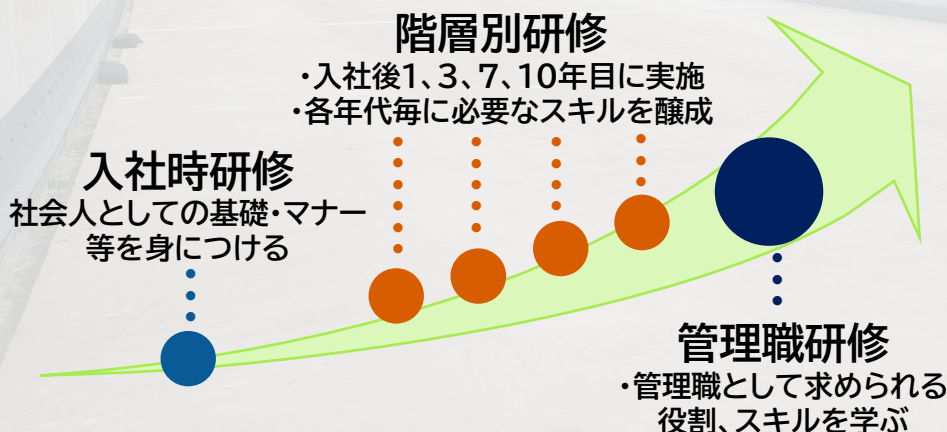


社内に異なる経験・技能・属性を反映した多様な人材を確保し、育成する

【リクルート方法】

- ①大学、高専向け企業説明会への積極的な参加、②職場見学、インターンシップなどによる魅力の発信、③教育機関との共同研究("福島広域連携ラボ"による教育機関とのコミュニティ形成)

②社員育成プログラム



資格取得支援講座

☞ 技術士をはじめとした資格別の試験対策講座の実施

職務別研修

☞ 部署毎に求められる専門スキルを醸成。必要に応じて外部機関が実施する研修・セミナーへの参加を促し、社内のみでは得られないスキルの獲得を目指す

例: 英語研修、海外研修etc...

リ・ブランディング

(国が提言する建設業の既存ブランドの再構築を含めた新たなブランドの構築)

【富士ピー・エス版リ・ブランディング】

現場職員個々人が、真に「誇り・魅力・やりがい」を感じるためには、**個人レベルで充実感と満足感**を得られる環境が必要である

 Before

- ・離職率の高止まりが継続しており、特に現場勤務の技術系社員の定着率が悪い
- ・職員が経験年数に比例して成長し、定着している実感がわからない
- ・ベテラン社員に依存する状態が続き、技術の継承、世代交代が進まず、会社の成長が停滞する
- ・会社の存続そのものが危ぶまれる

 After

- ・「潜在的な本来の価値の掘り起こし」、「これまでにない新たな価値の創造」を行う
- ・”脱、仮(設備)”をテーマに、職場環境、居住環境を改善し、現場事務所・宿舎を快適環境にする
- ・現場を「生活拠点、スキルアップ・自己実現の場」として環境を整備する
- ・技術系社員がこぞって自ら現場勤務を希望する環境をつくる

リ・ブランディング

(国が提言する建設業の既存ブランドの再構築を含めた新たなブランドの構築)

【富士ピー・エス版リ・ブランディング】

現場職員個々人が、真に「誇り・魅力・やりがい」を感じるためには、**個人レベルで充実感と満足感**を得られる環境が必要である

【人事/教育/キャリア】



- ✓ 適正な評価制度の確立
- ✓ キャリアプラン・キャリアパスの明確化
- ✓ サポート体制、個人の成長を促す環境づくり

本質的な生産性向上の実現に向けて

【居住環境】

- ✓ ゆとりと魅力のある
宿舎環境づくり



【労働環境】

- ✓ 風通しの良い職場づくり
- ✓ 業務改善の促進
- ✓ 週休二日制の完全導入



【富士ピー・エス版リ・ブランディングの取り組み】

“ウェルネス作業所”の設置

【Before（従来の現場事務所は）】

- ・備品等を最小限にし、短期使用が主目的
- ・休憩スペースの設置などが不十分である

【After（ウェルネス作業所は）】

- ・魅力的で働きがいがある環境づくり
- ・働きやすさの向上、職員の健康増進を図る

【導入事例の紹介(木部高架橋-島根県益田市)】



【社員の声】



当作業所はベテラン社員から入社2年目の社員まで、さらには女性社員も従事し、**年齢層・性別が多様な現場**です。

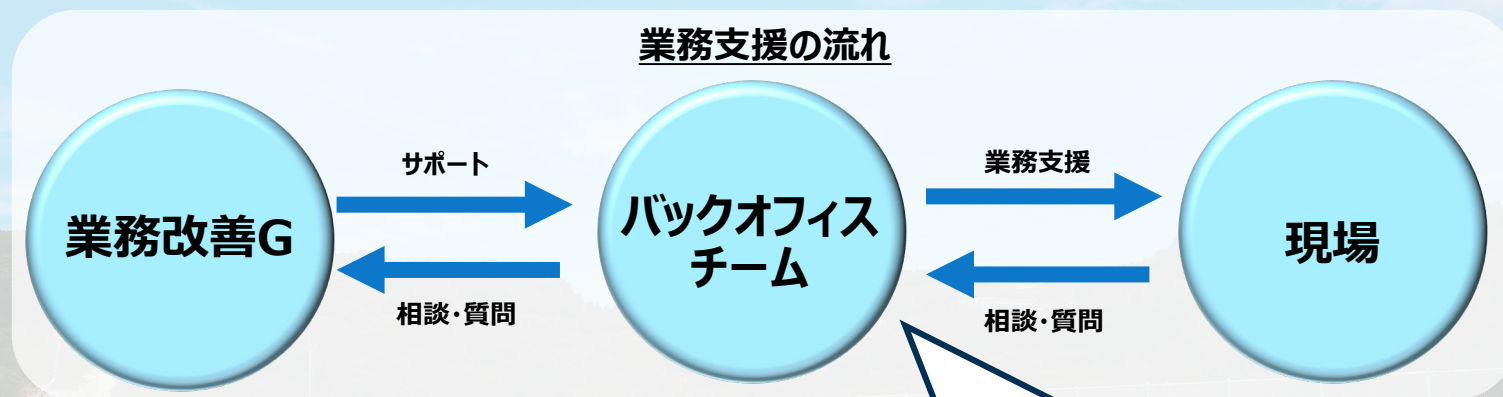
リフレッシュスペースでは、所長自ら声をかけ、コーヒーを飲みお茶菓子を食べながら談笑することもあり、**コミュニケーションの活性化**に一役買っています。

【バックオフィスの設置】

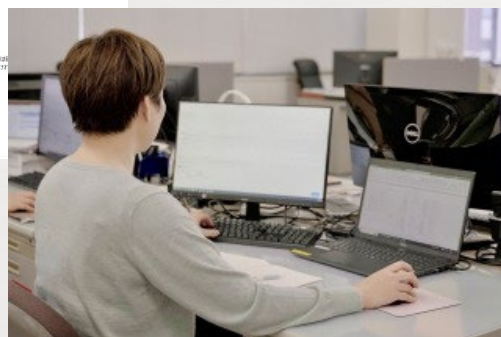
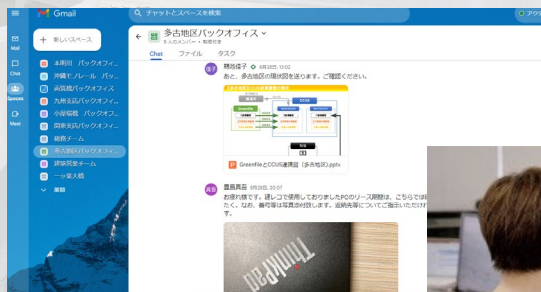
- ・生産現場の働き方改革
- ・2024.4 残業時間上限規制への対応



現場業務の支援開始



GoogleSpaceを活用し、現場・業務改善G・バックオフィスチームで情報共有



- ・勤務時間5～8時間/日
- ・リモートワーク可能

“フレキシブルな働き方”に対応

今後は、..

支援対象現場の拡大を目指す

【九州小竹工場リニューアル】

工場最適化の3要素を盛り込み、

生産能力の向上と未来型工場への転換を図る。最新情報をお知らせするホームページを開設

工場最適化の3要素▶

空間の
フレキシビリティ

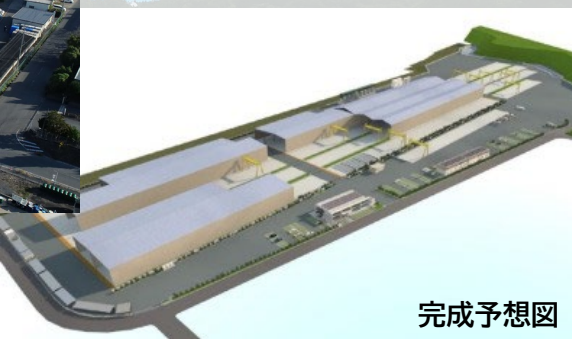
作業環境を
最適化する工場

労働環境への配慮
居住環境の確保

周辺環境への配慮
最先端の生産技術

【他5工場のリニューアル】

現況写真(2023年10月)



完成予想図

リニューアル計画を策定。生産能力増強計画を実施。



東北工場



いわき工場



関東工場



三重工場



滋賀工場

M&Aによる事業体制の拡大

【駿河技建について】

- ・インフラメンテナンス分野において、優秀な人材の確保と技術力の強化を進め、更なる事業拡大を目的として、2021年10月に完全子会社化
- ・鋼橋塗替塗装の先進工法である”クリーンレーザー工法”を導入し、事業の拡大を図る

》》》インフラメンテナンス需要に、富士ピー・エスグループで応える

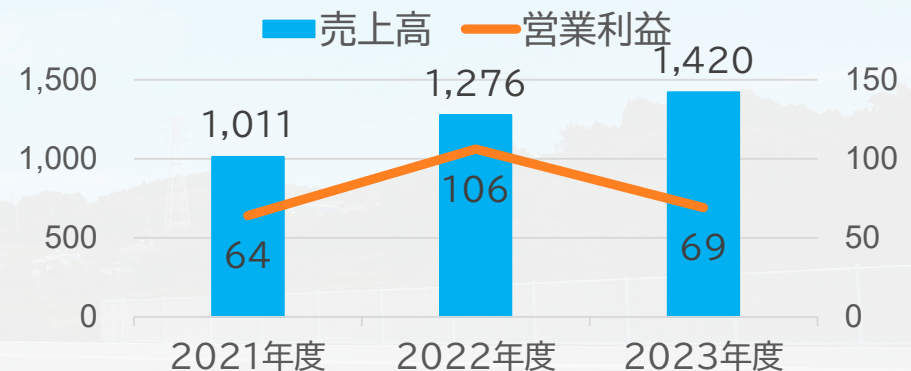


▲事務所全景



▲クリーンレーザー工法に用いる機材

【業績：実績と計画】



クリーンレーザー工法とは？

・高出力のレーザー光線により、粉塵の飛散、騒音や産業廃棄物の発生を防ぎつつ、旧塗膜・鉄サビ部分を除去し、粒子を吸引する画期的な工法

- ➡近隣住民・周辺環境への影響を最小限に(=SDGsへの貢献)
- ➡制約の多い施工条件から後回しになっていた橋梁への補修工事も可能

》》》メンテナンス需要のさらなる取り込みに期待



【カーボンニュートラル推進プロジェクトの立ち上げ】

プロジェクトの活動

- ・CO2排出量削減施策の検討
- ・ロードマップの策定
- ・情報発信

今後の取り組み

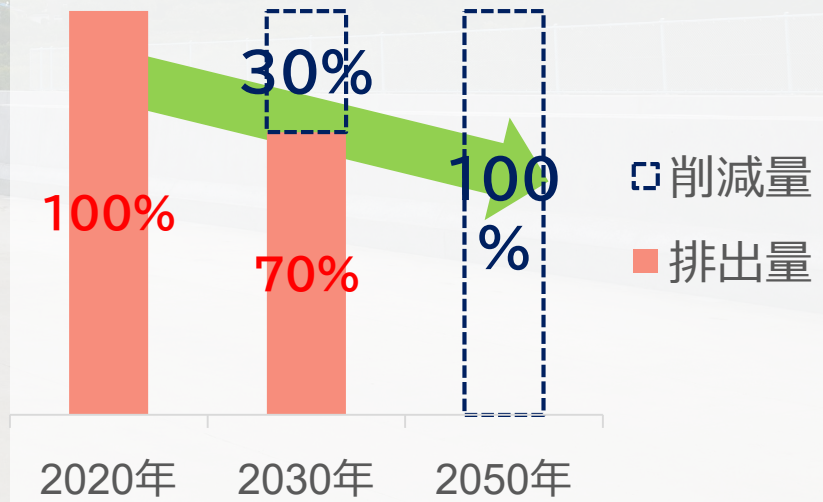
- ・各工事現場、全6工場のCO2排出量の算定
- ・CO2削減施策による削減効果および費用の算出

取り組み事例: **低炭素型FR板の開発**

- ・工場主力製品の低炭素化により、全体のCO2排出量削減を目指す
- ・業界全体の低炭素化需要に応える



削減目標



※2020年度の排出量を100とした場合

PC矢板を用いた堤防補強

✓ 国土交通省国土技術政策総合研究所からの委託研究 (令和3年度～令和4年度)

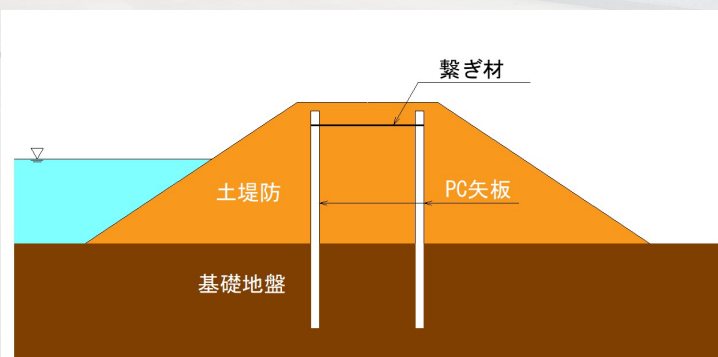
豪雨による河川の氾濫や土砂災害への対策

モノづくりを通じた防災・減災への貢献

九州を襲った記録的な豪雨により
決壊した球磨川（2020年7月）



実施 時期	～令和4(2022)年度	令和5(2023)年度:現在	今後の取り組み
取り組み 内容	・事業化に向けた環境整備 ・プロジェクトチームの立上げ ・連成解析手法を確立	・PC矢板の試験施工を実施 ⇒問題ないことを確認 ・越水に関する「粘り強い河川堤防に関する技術」(技術公募)へ応募	・適切な施工方法の検討を継続 ・実際の河川堤防でのパイロット施工を目指す



堤防補強を想定したPC矢板二重壁構造(イメージ)



PC矢板の打ち込み状況（試験施工）

加速度的に実用化開発を進めて、、、、

風力発電によるカーボンニュートラルへの貢献

地元地域等の産業復興の実現への貢献

【洋上風力発電事業への参画】

- ✓ 国内初となる洋上風力発電分野の産学官によるコンソーシアムへ参画しており、
 - ・洋上風力発電に関する技術の研究開発
 - ・人材育成の推進に取り組む

》》》洋上風力発電分野に当社技術
(コンクリート浮体の製作・施工)で貢献



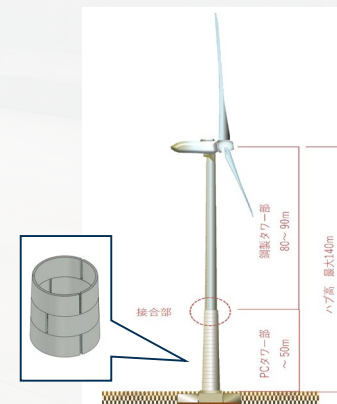
【風力ハイブリットタワーの実用化開発】

- ✓ 福島県「令和5年度地域復興実用化開発等促進事業費補助金」に本提案が採択され、
 - ・低風速地域や既設風力発電のリプレイス市場の需要獲得
 - ・浜通り地域でのサプライチェーン構築に取り組む

》》》2025年度までに実用化を目指す

「地域復興実用化開発等促進事業費補助金」とは？

福島県浜通り地域等15市町村において産業復興の早期実現を図る目的で行われ、当社はいわき研究所を中心に地域振興に資する共同提案を提出



ハイブリットタワー イメージ図

PPP(官民連携事業)

【官民連携事業への取り組み】

PPP/PFI制度によるインフラメンテナンス事業へ参画し、インフラ老朽化対策へ貢献

インフラ維持における逼迫性

①建設後50年を経過する施設の割合



加速度的に増加

②国・地方自治体における公共事業費



抑制傾向

③市町村の土木・建築部門の職員数



減少傾向

従来の方法によるインフラ維持は困難

PPP/PFIの推進による民間資金・ノウハウの活用

…効果的、効率的な社会資本整備を推進

=インフラの老朽化対策へ有効な手段



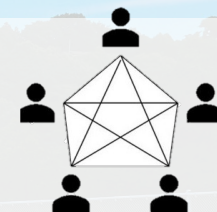
具体的には、…

地域プラットフォームの構築

地方公共団体:経験不足やノウハウ欠如

企業・関係者:理解不足

…課題を解決するための官民対話等の取り組み



国(内閣府)の取り組みの概要

①地域プラットフォーム形成支援

②優先的検討規程運用支援

③高度専門家による課題検討支援

④協定プラットフォームを活用した案件形成支援

⑤民間資金等活用事業調査費補助事業

⑥PPP/PFI専門家派遣制度

=地域のPPP/PFI推進を図るための支援を行う



PPP(Public Private Partnership)…官民が連携して公共サービスの提供を行う体系のこと。

PFI(Private Finance Initiative)…公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的・効果的な公共サービスの提供を図る考え方。



事業概要

事業概要

売上高(個別)**256億円**
(2023年3月期)

土木事業

- 橋梁（道路橋、鉄道橋）
- タンク（容器構造物）
- マクラギ、メンテナンス



	売上高(百万円)	比率
新設工事	15,567	78.5%
床板取替工事	3,340	16.9%
維持補修工事	914	4.6%
合計	19,821	

2023年3月期実績

不動産賃貸事業, 1%

建築事業,
22%

土木事業,
77%

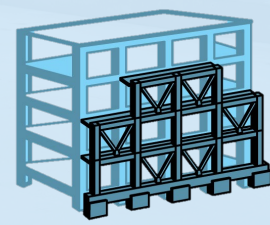
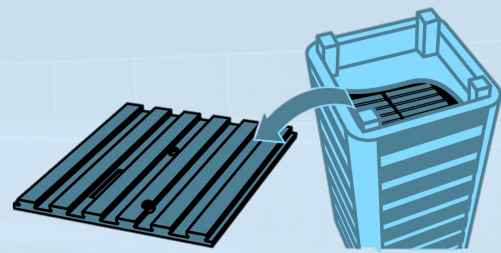
セグメント別売上高構成比

不動産賃貸事業

- 不動産の賃貸、管理等

建築事業

- マンション、オフィスビル
- 物流倉庫、スタジアム
- 耐震補強



事業概要 - 土木事業

新設事業

工 事 名 : 熊本3号袋川橋上部工工事

工 期 : 2022年2月～2023年10月

発 注 者 : 九州地方整備局



維持更新事業

工 事 名 : 宮崎自動車道(特定更新等)

池島川橋(上り線)床板取替工事

工 期 : 2021年11月～2023年9月

発 注 者 : 西日本高速道路(株) 九州支社

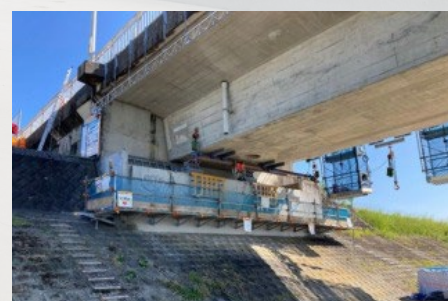


維持補修事業

工 事 名 : 一ツ葉大橋耐震工事

工 期 : 2023年1月～2025年7月(施工中)

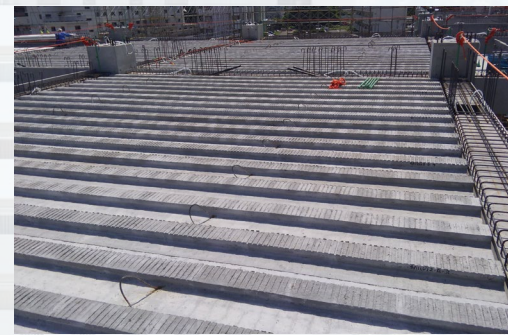
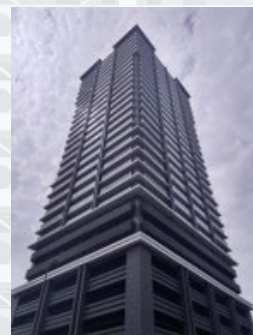
発 注 者 : 宮崎県道路公社



事業概要 – 建築事業

FR板スラブ工法

- ▶ 当社工場で製造するFR板を高層マンションの床材として敷設する工法
- ▶ 型枠としての機能を有し、木製型枠を使用しない地球環境にやさしいエコロジー商品



耐震補強工法

- ▶ 工事中の騒音・振動・粉塵の低減
- ▶ 居室内工事が不要で「完全居ながら施工」が可能
- ▶ マンションや学校の校舎などに採用される



プレキャストPC工法

- ▶ 工場で製作した部材を現場で組み立てて構造物を造る工法
- ▶ 環境に優しく、耐震性に優れた部材提供が可能
- ▶ スタジアムや学校の体育館などに採用される



事業概要 - 工場

全国をカバーする工場生産体制

多種多様な製品で時代のニーズに貢献

土木製品



プレキャストPC床版



プレキャスト桁橋

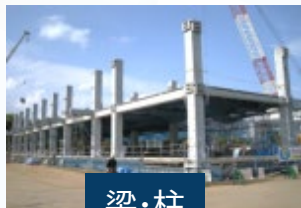


プレキャストセグメント

建築製品



FR板



梁・柱



段床版

製造設備

自動生産ライン・ロボット技術を活用した製品製造による

省人・省力化



IM設備



スリップフォーマー



鉄筋結束ロボ



東北工場

関東工場

九州小竹工場

いわき工場

三重工場

滋賀工場

PICKUP –防災・減災・国土強靱化に関する事業

被災した橋梁の補修

- ▶ 平成28年熊本地震で被災した阿蘇長陽大橋（熊本県南阿蘇村）
- ▶ 被災直後は通ることが出来ず、南阿蘇村立野地区から村役場まで大迂回を強いられたが、開通により所要時間が従来の40分から10分へ大幅に短縮された



- ▶ 国土交通省国土技術政策総合研究所から公募された委託研究に参加。

- ▶ が近年の激甚化する豪雨災害に対し、河川堤防が越水した場合であっても決壊しにくくするなどの減災効果を発揮する粘り強い構造の実現を目指したもの。

PC矢板を用いた堤防補強



橋梁の耐震補強工事

- ▶ 大地震への備えとして、インフラである橋梁に耐震補強を施す工事
- ▶ 現在、宮崎県で一ツ葉大橋耐震工事を施工中。



- ① 鋼製支承から免震支承への取り替え
- ② 制震ダンパーの設置等を実

モノづくりを通じた
防災・減災・国土強靱
化への貢献

The background of the slide features a large, light blue banner with the Fujitsu logo (a stylized 'F' and 'S' in a circle) and the text '富士ピー・エス' (Fujitsu P.S.) in white. The banner is slightly tilted and has a soft, out-of-focus appearance.

業績・決算概要

2024年3月期第3四半期決算

- ・「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策（令和2年12月）」による予算を含め、公共の建設投資はインフラ老朽化対策など必要性の高い事業を中心に底堅く推移していくと見込む。
- ・一方で、資機材や製品輸送費の高騰など建設コストは総じて高い価格水準で推移しており、生産性の向上や収益の確保に向けた施策が必須となる。

	2024年3月期 第3四半期	前年同期比
(単位:百万円)		
受注高	22,315	▲6,326
売上高	19,498	▲320
売上総利益	2,492	27
営業利益	121	29
経常利益	116	9
当期純利益	71	23

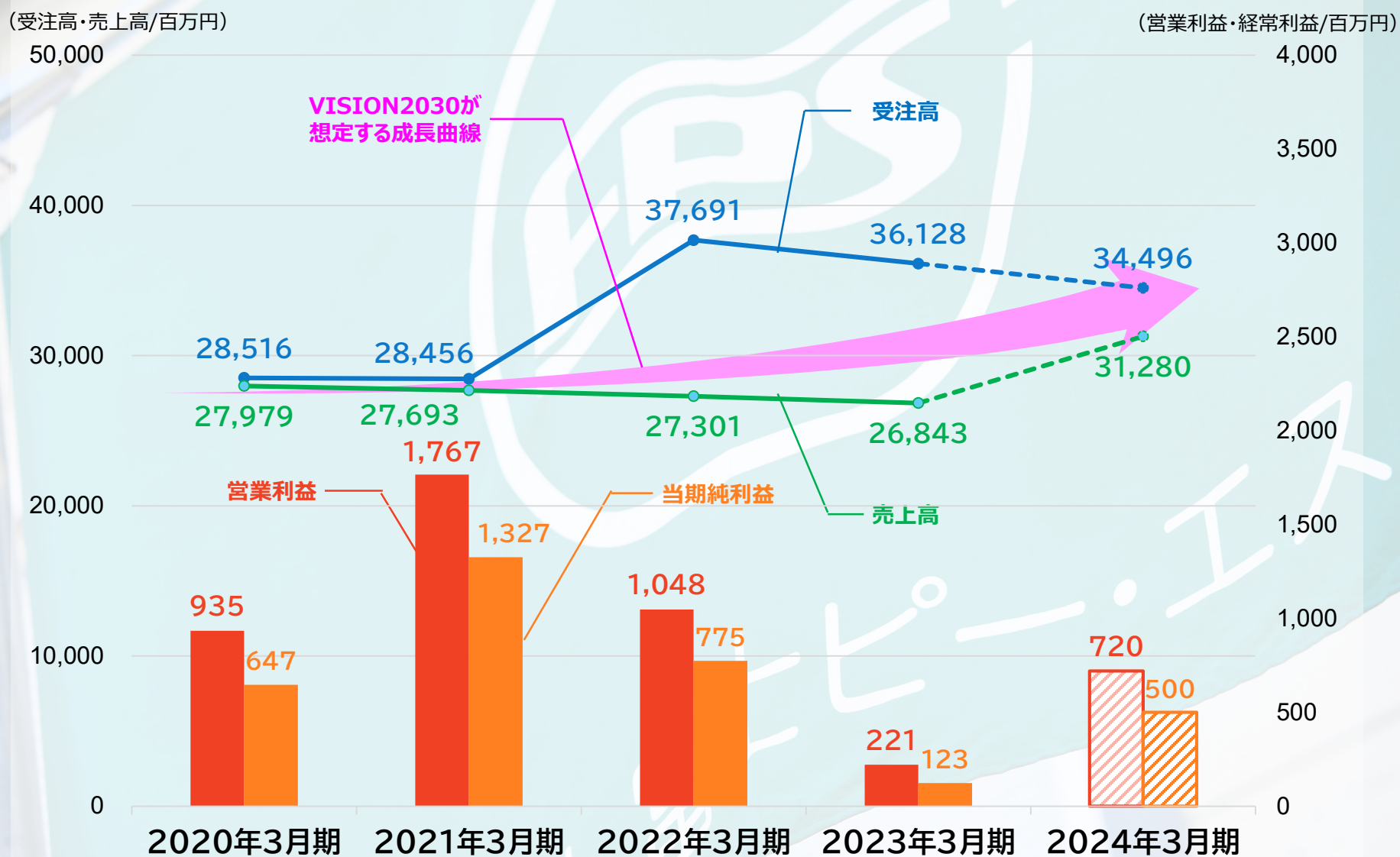
● 売上高

土木は一部の大型工事において工事着工までに時間を要したことなどによる進捗の遅れによる減。一方建築は関東地区大型工事の元請都合による工事中断の影響は解消しつつあり、さらに関西・中部地区で耐震補強工事等の進捗好転による増

● 営業利益

土木では売上高の減少に加え、採算性の高い工事の進捗が想定以上に遅延したことや、民間工事における原材料・労務費などの建設コスト高騰の影響などにより減。建築では、採算性の高い工事の進捗が順調に推移したことにより増。

2024年3月期 通期決算予想



2024年度に向けて

【業績目標】 VISION2030計画への軌道回復を必須とする。

…(具体的には)売上高**330**億円、営業利益率**4.5**%を達成目標とする。

土木事業



- ▶ 売上高**210**億円以上の達成
- ▶ 当社保有技術を活用した**カーボンニュートラル**の実装に向けた取り組み
- ▶ 工事**現場の環境改善**への取り組みの推進
- ▶ グループ全体での**補修補強・耐震工事**への本格的事業拡大・技術力向上

建築事業



- ▶ **制震デバイスを組み込んだPCaPC**の営業展開、顧客開拓
- ▶ **低炭素型FR板**・顧客要望に応えるプレキャスト製品の開発加速
- ▶ 建築製品の**品質向上・原価低減**への取り組み

研究開発



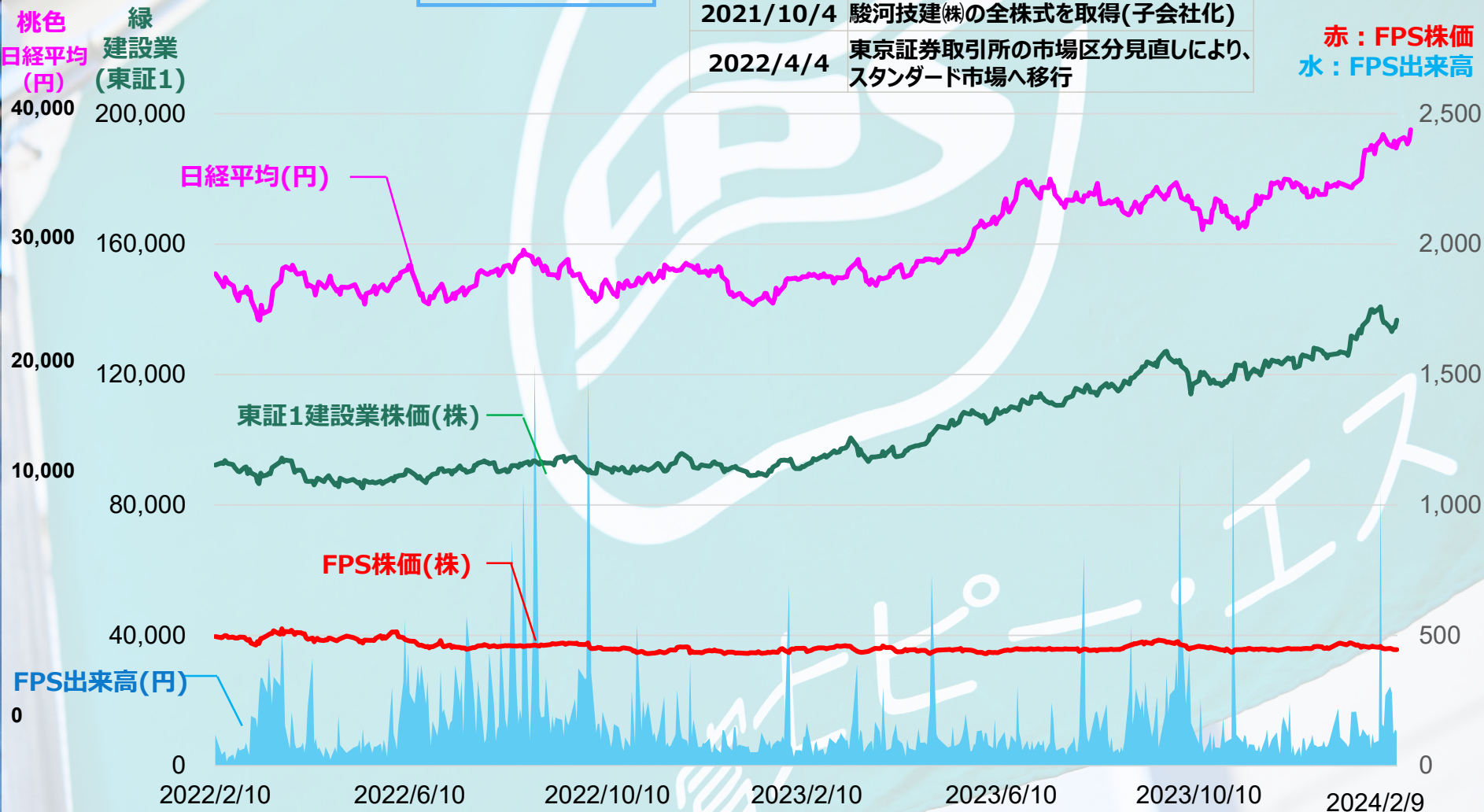
- ▶ **DX(デジタル技術)**の推進を通じて生産性向上を図る
- ▶ 建築製品のプレキャスト化
- ▶ 交通インフラ、補修補強
- ▶ **環境対策**(カーボンニュートラル等)を通じた持続可能な社会の実現への貢献
- ▶ PC矢板を用いた堤防補強による**防災分野への貢献**

株価推移

2024年2月9日時点
株価 **445円**

年月日	イベント
2018/ 6 /19	東京証券取引所市場第一部指定
2021/ 1 / 1	(株)シーピーケーを吸収合併
2021/ 5 /12	中期経営計画「VISION2030」の策定
2021/10/ 4	駿河技建(株)の全株式を取得(子会社化)
2022/4/ 4	東京証券取引所の市場区分見直しにより、スタンダード市場へ移行

赤 : FPS株価
水 : FPS出来高

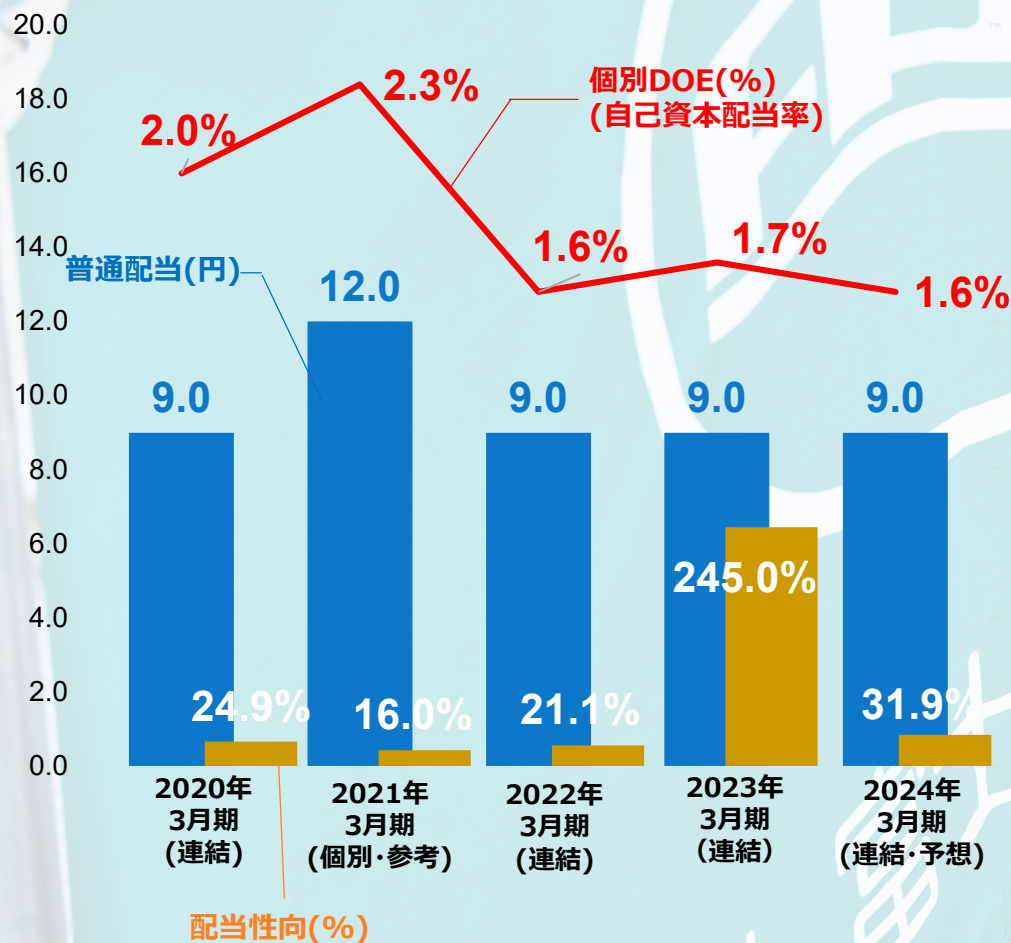


注1 : 2023/11/17 時点の株価、パーセンテージはグラフ始点(2021/11/22)を基準(100%)とした相対表示

注2 : 「建設業(東証1)」は、「旧東証一部に上場していた建設業企業」の96社が対象。そのうち現市場区分では、プライム83社、スタンダード13社。

配当方針

「財務体質の強化」と「積極的な事業展開に必要な内部留保の充実」
を図りながら、安定配当を実施



株主優待

対象：1 単位（100株）以上を保有する株主様
(毎年 9 月 30 日現在の株主名簿による)

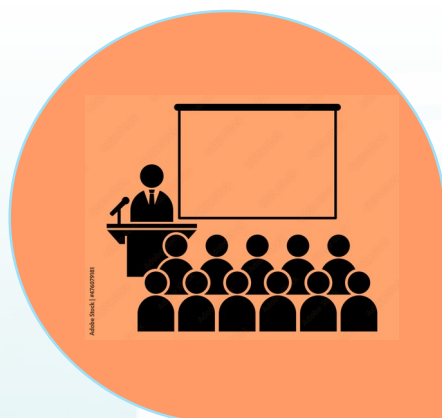
保有株式数	保有年数	内容
100株以上	1年未満	QUOカード 500円分
	1年以上	QUOカード 1,000円分
1,000株以上	1年未満	QUOカード 1,500円分
	1年以上	QUOカード 3,000円分



株主価値の向上について

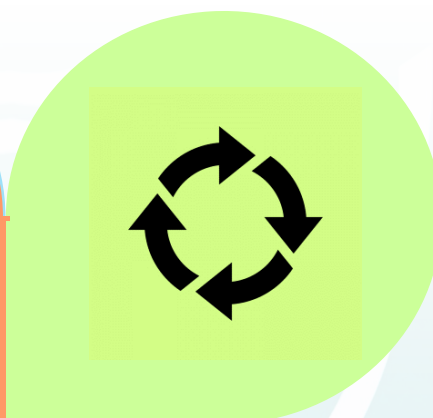
IR活動強化

- ・HP発信力の強化
- ・個人株主説明会の実施



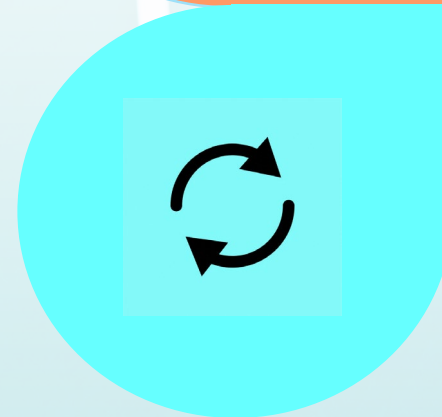
流動性の向上

- ・流通株式の増加



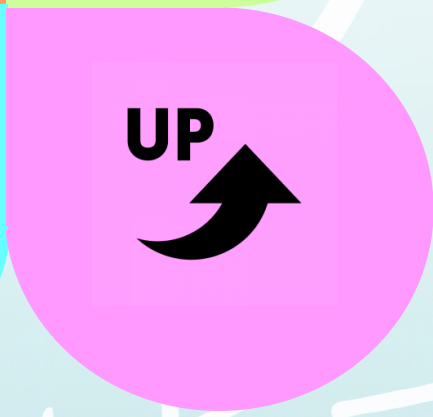
株主還元

- ・株主優待
- ・配当性向の向上



業績向上

- ・収益力の強化
- ・規模の拡大



PBR(株価純資産倍率) 1.0倍以上を目指す
(2/9現在:株価445円→0.80倍)

《注意事項》

本資料は情報提供を目的としており、当社株式への投資を推奨するものではありません。

また、将来の業績等に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により変動する可能性があります。

投資にあたりましては、ご自身の判断により行って下さい。

本説明会に関するご意見やお問い合わせにつきましては、IR担当までお願いいたします。

IR担当 経営企画室

TEL:092-721-3473 FAX:092-721-3460

メールでのお問い合わせは当社ホームページよりご連絡ください。

URL:<https://www.fujips.co.jp>